

「自立と社会参加をめざす授業づくり」

～積み重ね、広がる指導をめざして～

学部研究「カリキュラム大作戦！」

○知的障害教育部門・肢体不自由教育部門：学習の積み重ね、広がり（3年ないし6年間）について、新学習指導要領に基づき、学習内容を教科ごとに整理する。中学部・高等部については外部講師の助言を受け、作業学習の整理を行う。

○視覚障害教育部門・聴覚障害教育部門：教育的二ーズの的確な把握に基づく授業を実践し、効果的なアプローチであったか検証する。

- ・4年計画のまとめの年として取り組んだ。学部部門ごとに学習指導内容表を作成したことにより、小学部・中学部・高等部の各段階の見通しをもって指導を行う足掛かりができた。
- ・中学部、高等部では、渡部教授に作業学習の参観を通して、取り組みに対する御助言をいただき、作業のねらいや課題を整理して取り組むことができた。

授業改善

「わくわく大作戦！」

○アセスメント評価に基づいた授業実践を行う。ICF について学び実践にいかせるようにする。

○新学習指導要領に基づき、観点を明確にして授業を行い、授業改善につなげる。

○一人ひとりの授業力向上をめざす。

- ① 経験者研修等研究授業と授業検討会
- ② ①の対象者を除いた、一人1回の校内授業公開
- ③ 教材教具・指導法の工夫シートを一人1枚作成

・徳永教授に御講演いただき、ICFの視点について学び、チームで関連図作成を行ったことは子どもの全体像を捉える上で成果があった。次年度もICF関連図を作成し、子どもを総合的・多面的に捉える研修を行う。

学習環境の整備

「EE 大作戦！」

○中央支援スタンダードの活用、充実に取り組む。

- ・統一シンボル
 - ・統一サイン
 - ・フロントゼロ
 - ・教室内の環境整理
 - ・右側通行
 - ・教室内の掲示物
 - ・手順書
 - ・水泳学習進度表
 - ・UDフォントの積極的使用
 - ・新型コロナ感染症への対策
- ※EE: educational environment

学校としてつながりのある指導を目指すことや専門性の担保として活用できるようにする。

ICT機器の効果的な活用
「自立と社会参加をめざす学習内容表」の活用

一人1回の研究授業もしくは授業公開と 研究授業の授業検討会

今年度は初任者、経験者等研修対象の職員による研究授業、それ以外の職員による授業公開を実施した。(研究授業 24件、授業公開 92件)

「自立と社会参加をめざす学習内容表」をもとに一人ひとりが「自立と社会参加」の視点を持って授業を立案し公開した。授業を公開することで、自分の授業を振り返りアドバイスを参考に授業改善につなげることができた。参観できない職員向けに、放課後ビデオ上映を行った。

研究授業の検討会は6月から11月まで、30分の設定で毎月1回ずつ行った。全職員が希望する授業の分科会に参加し、そこから新しい学びを得て授業改善に生かすことができた。



「教材教具・指導法の工夫シート」の作成

指導情報を共有することで授業改善につなげるとともに、教員の発信力を高めることをねらいとして、一人1枚の「教材教具・指導法の工夫シート」を作成した。廊下に掲示して情報共有できるようにした。また、夏季休業中には実物の教材を合わせて展示し、教材準備に役立てることができた。



その他の今年度実施した取り組み

研修会は、新型コロナウイルス感染症の対策を行いながら、会場を分散してリモートで行ったり、参加できない研修会をDVDで視聴できるようにしたり、計画を工夫し実施することができた。

○さがちゅうゼミ

個々のニーズに基づいた自主研修会を6講座開催した。

○授業改善研修会

授業力向上にかかわる研修会として6回実施した。新たな取り組みとして、各学部部門のニーズに応じたテーマ設定の研修会ができた。また、横浜国立大学教職大学院 渡部匡隆氏、横浜国立大学教職大学院 徳永亜希雄氏を講師にお招きして、研修、講演会を実施した。



各学部の取り組み

学部研究のテーマ

視覚障害教育部門	「一人ひとりに応じたコミュニケーション手段を用いた指導方法について」
聴覚障害教育部門	「ことばの力をつける」～実態に応じた言語指導を通した授業づくり～
小学部	小学部における「生活（道徳含む）」「体育」「お話」の授業改善 ～新学習指導要領に基づく学習指導内容表の作成～
中学部	中学部における「作業」の学習内容の見直し ～新学習指導要領に基づく学習指導内容表の作成～
高等部	高等部における作業内容の見直し ～キャリア教育改変 作業10年目の点検～
訪問教育	訪問教育における「作業」のとらえと学習内容 ～新学習指導要領に基づく学習指導内容表の作成～

視覚・聴覚障害教育部門は、障害の特性に対応しながら、個々の認知能力を高めていくための指導方法や指導内容について検討した。

知的障害教育部門、肢体不自由教育部門については学部ごとに、訪問教育は担当で、新学習指導要領に基づいた「学習指導内容表」の整理を行った。

「なるほど！The 学習環境」

「コロナに負けない授業の工夫」を情報共有した。

＊クラスで『換気タイム』の時間を設け、工夫して子ども達と楽しく取り組めるようにした。

＊感染症対策に留意した水泳学習が実施できるように、研修会で水泳マスクを作製し活用した。



大型扇風機登場！BGMを流してみんなでタオルを振って換気タイム！！



ビニールマスクをつけて水泳指導！

